

「ラブジョイ彗星を撮る(2)」

彗星は天体写真の中でも、一番難しく、また魅力的な対象でもあります。彗星の魅力は、その長く伸びた尾ですが、肉眼で尾が確認できる彗星は非常に稀です。しかし写真にはよく写ります。百武彗星やヘール・ボップ彗星のような大彗星の場合は、標準レンズ——場合によっては広角レンズでも尾の撮影が可能です。しかし、今回のラブジョイ彗星のような、暗く尾も淡い彗星の場合、望遠レンズか天体望遠鏡が必要です。

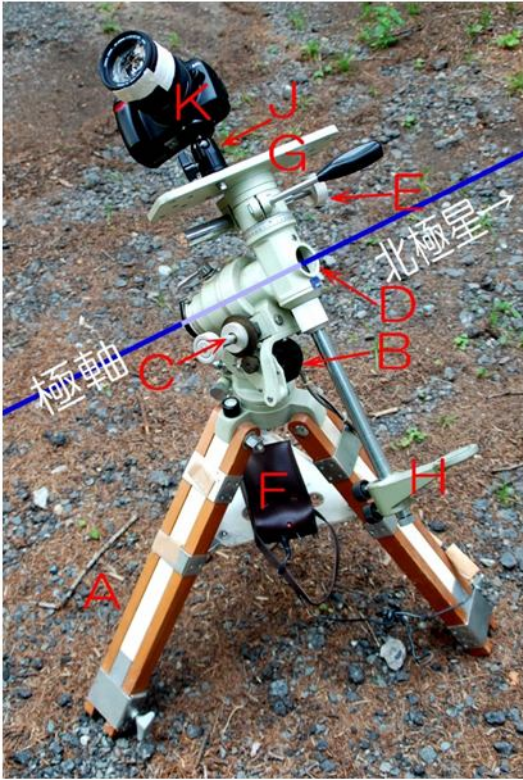
天体写真に望遠レンズを使う場合、小さな天体が明るく写る一方、視野は非常に狭くなります。その狭い視野の中に、淡い光芒の彗星を導入するのは、至難の業です。天球上の位置を正確に知っておくだけではだめで、「天体の見え方」に対する、ある種の勘が必要です。



「2015年1月17日のラブジョイ彗星の位置」 The Sky で計算 ; C. Tanaka

この晩に彗星を探す場合、おうし座の左頭の星と彗星を底辺として、プレアデスを頂点とした、裾野広い二等辺三角形を思い浮かべます。底辺の右頂点にボーっとした光芒が見えれば、それが彗星です。そこにカメラの視野をうまく持っていけばいいわけです。

視野が狭いということは、日周運動によって、天体がすぐに動いてしまうということです。それを回避するには、赤道儀が必要です。



「タカハシP2赤道儀」

小型ですが性能は抜群で、もう30年も使っている愛機です。

- A ; 架台（三脚）と水準器
- B ; 赤経駆動モーター
（ステッピング・モーター）
- C ; 赤経ギアと手動ハンドル
- D ; 極軸望遠鏡
- E ; 赤緯手動ハンドル
- F ; 電源部（電池ボックス）
- G ; プレート（カメラ架台）
- H ; バランス・ウェイト
（ここにカメラを載せてもOK）
- J ; 自由雲台
- K ; デジタル一眼レフカメラ



「ラブジョイ彗星とプレアデス星団」 2015, -1, 25 北軽井沢 C. Tanaka

この日は、プレアデス（すばる）が近かったので、望遠レンズよりも標準レンズを選びました。

あまり満足のいく写真ではありませんが、とりあえず自分の機材で去りゆく彗星の姿を残せてよかったです。2月上旬ぐらいまでは撮影チャンスがあるので、また挑戦します。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）